乳がんについて知ろう～あなたとあなたの大切な人のために～

その１

日本では16人に1人がかかるといわれる乳がん。治癒率を高めるには「早期発見」が基本です。このシリーズでは最新の乳がんの診断について分かりやすく解説していきます。初回は「画像診断」です。

宇都宮セントラルクリニック理事・医師
佐藤俊彦 氏

・セントラルメディカル倶楽部顧問医
・野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長
▪ 主な著書
『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』（幻冬舎）、他多数

テーマ　乳がんの画像診断とは

乳がんの画像診断＝マンモグラフィーと考えられている方が多いと思います。しかし、実際にはマンモグラフィーでは乳がんの約20％は発見されません。それでも、進行がんで見つかるよりは「早期発見」に有効なので、ピンクリボン運動では、マンモグラフィーを受けましょうと啓発活動を行っているのです。

しかし、ご自身やご家族の健康を考えるならば、ベストな方法を選択すべきだと思います。いま、注目されているのは最新式の「トモシンセシス」というエックス線を使った乳房断層撮影と「ＡＢＶＳ２０００」というボリューム超音波装置の検診です。自分の乳房がデンスブレスト（高密度乳腺）であれば「ＡＢＶＳ２０００」での検診を推奨します。デンスブレストでなければトモシンセシスを推奨しますが、自分の乳房の状態は検査をしなければわかりませんので、両方の検査を受けることをお勧めします。

次回は栃木県初導入、最新鋭マンモグラフィー「トモシンセシス」のお話です。

乳がん検診実施中
医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック
宇都宮市屋板町 561－3
☎ 028・657・5215
http://www.ucc.or.jp
宇都宮セントラルクリニック　検索
PR